

	現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
			カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
19	ゴヨマイ 瑠瑠瑠 (根室市)	地区	コイオマイ *コヨマイ	koy-oma-i	波・ある・所	海中のコヨマイ島の姿から呼ばれたのであろう。	山田	B	-
20	コンブ 昆布 (蘭越町)	地区 川 駅 山岳 温泉	コンポヌプリ	konpo-nupuri	昆布の{?}・山	太古津波があった時、山上に昆布が沢山あったためという。 {古老たちは「コンブの川に海のコンプがあったからだ」と伝えているという。}	永田	C	? ?
			トコンポヌプリ	{?}	小さなコブ山	-			駅名
21	コンブ 昆布盛 (根室市)	地区 駅	コムプロイ	{kompu-moy}	昆布・湾	-	永田	A	土地柄、妥当な解と思われる。
22	コンブ 昆布森 (釧路町)	地区	コムプロイ	kompu-moy	昆布の入輪 昆布・入江	ここは狭い入江だが、昆布が沢山あったため。	上原 山田	A	

【サ】

	現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
			カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
1	サキムイ 崎無異 (標津町)	地区 川	サキペモイ	sakipe-moy	鱒・湾	この入江で、夏に鱒漁をしたため。 {標津町史は「鱒の入江」と書いている。}	永田	C	-
			サクモイ	{sak-moy}	夏・湾				-
2	サク 佐久 (中川町)	地区 駅	サクコタンナイ	sak-kotan-nay	夏村のある川 夏の・村の・川	昔は漁のため夏の間は川岸で生活したため。 {中川町史は「夏に漁労の生活をするために、魚のたくさん獲れるこの河口にコタンをつくり生活していた。」と書いている。}	駅名 山田	B	-
3	サクルー (滝上町)	地区 川	サクル	sak-ru	夏・道	サクルー川を溯って山を越えると天塩川源流の東支流で、同名のサクルー川(天塩、朝日町)に出る。つまりオホーツク海側と天塩の山奥とは夏(雪のない時)、向かい合っているこの二つのサクルー川の筋を通過して交通していたらしい。	山田	A	
4	サシウシ 刺牛 (白糠町)	地区	サシウシ *サシウシ	sas-us-i	コンブ・群生する・所	海流の関係かこのごろは余り育たなくなったが、前は昆布がよく流れて来ていたという。	山田	B	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				欄外	コメント
5 サツナイ 札内 (幕別町)	地区 川 駅 山岳	サツナイ	sat-nay	乾く・川	渇水期になれば、乾いた砂利川原が広がる川だったであろう。道内にはサツ(乾く)のつく川名が多いが、その殆どは砂利川である。 {雨が降れば川面はいっぱいになるが、好天が続くと減水して細い流れに変わったという。}	山田	A	
6 サツミ 札富美 (上湧別町)	地区	サツフミイ	sat-humi-i	水乾きて音無き所	川口で、水音がしなかったため。	永田	B	? ? 山田解の方が自然な形と思われる。 -
		サツフミ	sat-humi	乾く・婦美川	上手に婦美川(hum-i その音)が並んでいて、その弟分のような川なので、その名を使ったと解したい。	山田		
7 サツマエ 札前 (松前町)	地区	サツナイ	sat-nay	乾く・川	この川の水が、常に少なかったためか。	上原 山田	C	?
8 サツクル 咲来 (音威子府村)	地区 駅 峠	サクル	sak-ru	夏・道	パンケサクル川に沿って道が上り、咲来峠を越えて北見の幌別川筋に下っている。古くからの通路だったのでこう呼ばれた。	山田	A	
9 サツチャルベツ (更別村)	川	サラチャラベツ *サツチャラベツ	sar-car-pet satcar-pet	カヤ川口 ヨシ原の・口の・川	続けて発音すれば、サツチャラベツとなる。	永田	C	- 諸説あり特定しがたい。 - -
		サツチャラベツ	sat-car-pet	乾口川 乾く・口の・川	-	山田		
		サツサラベツ *サツチャラベツ	sat-sarpet satcarpet	乾く・猿別川(支流)	一応は現地を歩いて見たが、現在の地形からは何とも判断ができなかった。	山田		
10 サツツル 札弦 (清里町)	地区	サツル	sat-ru	乾路 {乾いた・道}	-	永田	B	? 松浦解の方が自然な形と思われる。 -
	川 駅	サクル	sak-ru	夏・道	山越えて根室国側に出るのによく使われた道らしい。今は余り人目につかないが、アイヌ時代の昔から東北海道の大切な交通路だったのだろう。 {文化4年、近藤重蔵『蝦夷図』には、ここに通路が明記されているという。}	松浦 山田		
11 サツテキナイ 札的内 (浦臼町)	地区 川	サツテキナイ	sattedek-nay	やせる・川	乾期になると水が砂利の下にしみ込んで、水流がやせ細るためだろう。 {川床は砂利で夏にはすっかり乾ききるといふ。}	山田	A	

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
12 サットモナイ 札友内 (弟子屈町)	地区	サヲトムオマナイ *サットモマナイ	{ sar-tom-oma -nay } { sattom-oma-nay }	ヨシ原・の中間・にある・川	松浦図ではサットモマナイと書かれ、永田地名解では「サットモマナイ、やちの間にある川」と書かれた。語義は左記のいずれかの形で、それを続けて呼んだ形で残ったものであろう。美留和川口より少し上手の藪の中から潜り抜けて出て来たような小流のことだったらしい。	山田	B	-
13 サッピナイ 札比内 (月形町)	地区	サッピナイ	sat-pi-nay	涸れたる小川 { 乾く・小さい・川 }	この川上に沼があり、乾期には乾き、雨後には水を流した。 { 「小さい川」を「ピナイ pi-nay」という例は他に見当たらないという。 }	永田	A	? ? 山田解が自然な形と思われる。
	川 駅			乾く・小石の・川	この辺では普通の大きさの川なので、ピは「小さい」ではなく「小石」と読みたい。古老に昔の姿を聞くと、平常は流れているが、乾期になると、途中の所で水が砂利の下にもぐってしまって、からからになるのだったという。	山田		
14 サッポロ 札幌 (札幌市)	市 駅	サッポロ	sat-poro	乾く・多い	この川が急流で乾燥しやすかったため。	松浦	C	諸説あり特定しがたい。 -
				乾燥広大 { 乾く・大きい }	-	永田		
	サッチェポロ	sat-cep-poro	乾した・魚・多い	豊平河岸でたくさん捕れた鮭を、アイヌの家毎に貯えた様子をいった。	林頭三 山田			
	山岳	サヲポロペツ	{ sar-poro-pet }	そのヨシ原が・広大な・川	音が変化しサチポロベツとなり、下部が省略されてサチポロとなり、さらにサツ(乾いている)に付会されてサッポロとなった。	駅名		
	サッポロペツ	sat-poro-pet	乾く・大きい・川	豊平川が峡谷を出て札幌扇状地(今の市街地)で急に広がり乱流し、乾期には乾いた広い砂利河原ができる姿を呼んだのではあるまいか。	山田			
15 サ和 佐幌 (新得町)	地区 川 山岳 ダム	サオロオベツ *サオロペツ	sa-or-o-pet	下方の川 前・の所・にある・川	sa は「前」で、地名では海の方、あるいは大川の方をいう。新得や清水町の山側の人たちから見れば、十勝平野とか十勝川本流の方が「前」である。それでこう呼んだのであろうか。	永田 山田	C	-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考		
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント	
16 サマニ 様似 (様似町)	町 川 駅 ダム	エサマンイ *エサマニ	esaman-i	カワウソ・所	原名はエンルム。エサマンペツのアイヌをここに移したときに、様似場所と名付けたという。 {昔は、カワウソがいたという。ただし、esamanの後に-iは立たない。}	永田	C	? ?	
		エサマンペツ	esaman-pet	カワウソ・川					
		サマンイ *サマニ	saman-i	横になっている・もの(川)	音だけでいえば、こう聞こえる。この川の川尻が海に向かって横に流れている姿を呼んだものか。	山田			-
		サンマウニ	{ ? -un-i }	朽ち木のある所	{「サマムニ samamni 倒木」を考へての解か?}	様似町 H P			? -
17 サマイ 様舞 (池田町)	地区	サモオマイ	samo-oma-i	和人・いる・所	-	山田	C	?	
	駅	サモオマナイ	{ samo-oma-nay }	和人・住んでいる・沢	ただし、ここに和人が定住したのは明治29年以後のことであり、この点疑問が残る。	池田町史			?
18 サラハツ 更別 (更別村)	村 川	サラペツ	sar-pet	ヨシ原・川	この辺にヨシ原があって、この名ができたのか、あるいは猿別川筋なので当然 sar-pet の地なのであるが、下流と区別するために更別としたのか分からない。後者の方なのではなからうか。	山田	B	-	
19 サランペ 砂蘭部 (八雲町)	川	サラウンペツ	sara-un-pet	尾川 尾・にある・川	遊楽部川の支流の中で、一番川下にあるため。	永田 山田	C	- どちらとも特定しがたい。	
	山岳	サラウンペ *サルンペ	sar-un-pe	ヨシ原・にある・者(川)	もしかしたら、この形の転訛であったかもしれない。	山田			-
20 サル 沙流 (平取町)	川 山岳	サラ	sar	湿沢 ヨシ原	沙流川の下流は、今は水田地帯であるが、昔は大きなヨシ原だったからの名。 {沙流川河口の中州にも、川岸にもヨシが繁茂しているという。}	上原 山田	A		
21 サルキウシ 去来牛 (釧路町)	地区	サラキウシ *サラキウシ	sarki-us-i	芦荻有る沢 ヨシ・群生する・所	-	松浦 山田	B	-	
22 サルコツ 猿骨 (猿払村)	地区 川 沼	サラエウコツ *サレウコツ	sar-e-ukot	ヨシ原(川)が・そこで ・くっついている(合流している)	旧図を見ると、現在の猿骨川の川口に当たる海岸にシャレウコツと書いてあり、猿骨川の川下は海岸に沿って長く南流し、逆に南から海岸に沿って北流していた猿払川の川下と合流してから海に入っていた。	山田	A		
23 サルフツ 猿払 (猿払村)	村 川	サラプツ	sar-put	ヨシ原の川の川口	ヨシ原の川の川口の所(現在の浜猿払)の名が、付近一帯の地名となったもの。	山田	A		

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考		
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント	
24 サルベツ 猿別 (幕別町)	地区 川	サラベツ	sar-pet	ヨシ原・川	猿別市街の辺がヨシの生える湿原であった所から出た名であろうか。	山田	B	-	
25 サルル 沙留 (興部町)	地区 川 岬	サラオロ *サロロ	sar-or	カヤの中なる川 ヨシ原・の中(の川)	小川で支流はないが、川口の砂深く、人が渡るのに極めて危険である。 行って見ると正に sar-or といった所である。	永田 山田	A	-	
26 サルル 猿留 (えりも町)	川	サラオロ *サロロ	sar-or	湿沢のある ヨシ原・の中(の川)	{そのとおりのところだという。}	上原 山田	B	いずれにせよ、「ヨシ原の中を流れる川」が名の元と思われる。 ?	
		サロルンウシ *サロルンウシ	sarorun-us-i	ツル 鶴多き所 {鶴・多い・所}	-	永田			
		サラオロオペツ *サロロペツ	sar-or-o-pet	ヨシ原・の中・にある・川	川の両側に広がるヨシ原の中を流れる川の名が地名となった。	えりも 町史			-
27 サロベツ (豊富町)	地区 川 公園	サラオペツ *サロペツ	sar-o-pet	ヨシ原・にある・川	川筋は今でも広漠たる低湿原野でヨシの繁る所である。サロマベツ(sar-oma-pet ヨシ原・にある・川)とも、あるいは単にサラベツとも呼ばれた。	山田	A	-	
28 サロマ (佐呂間町)	湖	サラオマト *サロマト	sar-oma-to	湿沢のある沼 カヤある沼 {ヨシ原・にある・沼}	沼の辺りが湿沢だったため。 沼の周辺がすべてカヤであったためという。	上原 永田	B	いずれにせよ「サロマト」と思われる。	
		(サロマト)	( saroma-to )	(佐呂間別川・湖)	アイヌ時代には、一般にこの種の大湖はただト(湖)と呼ばび、特別の名でいかなかったのが例である。和人が来るようになり、和人の流儀にならって呼んだ名でもあったか。またその元来の意味は「サロマ・ペツ(佐呂間別川)の湖」だったのかもしれない。	山田			-
29 サロマベツ 佐呂間別 サロマ 佐呂間 (佐呂間町)	川 町 山岳	サラオマペツ *サロマペツ	sar-oma-pet	ヨシ原・にある(に入っている)・川	この川の川尻一帯がヨシ原であるので、こう呼ばれたのであろう。	山田	A	-	

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
30 サキ 沢木 (雄武町)	地区	サキ	sarkip	鬼カヤある所{?}	浜に近いところに鬼カヤが生えていたため。 語尾の p は語法上おかしい。	永田 山田	B	? ? いずれにせよ「sarki があつた」ことが名の元と思われる。
		サキ	sarki	ヨシ	-	山田		
		サマケ	{ samake ? }	<sup>カタワラ</sup> 傍の所	土地のアイヌは「サワケ」といっていた。おそらく「サマケ」の訛化で、部落が山のかたわらの所などにあったからの証拠ではなからうか。	駅名		
		サキペツ	{ sarki-pet }	ヨシ・川	この付近はここ以外にヨシがなく、家造りの材料をとる大事な所だったので、この名がでたと思う。	雄武町史		
31 サハラ 砂原 (砂原町)	町 駅 山岳	サラ	sara	現れる	-	上原	C	-
		サキ	sarki	鬼カヤ	-	永田		
		サラ	sar	ヨシ原	-	山田		
		-	-	-	砂地であることから名付けられた和名かもしれない。			
32 サンケパイ 産化美唄 (美唄市)	川	サンケパイ	sanke-pipay	浜の方に出す・美唄川	何を出したのか分からない。大雨の時に大増水する意か。あるいは山から何かを運び出した川筋なのか不明。 {後年山田氏は、産化美唄については元来の地形がはっきりしないため特定には至っていないが、サンナイ及びサンケナイ(ベツ)の多くは支流が沢山集まる川で大雨の時などに大水を出す川であるとしている。}	山田	B	-
33 サンケベツ 三毛別 (苫前町)	川 山岳	サンケベツ	sanke-pet	浜の方に出す・川	諸地にある名だが、何を出したのかはどこでもはっきりしない。大雨とか雪融け水の時にどっと水を出した川ではなかったろうかとも考えて来た。 {山田氏は後に現地調査により、上流に支流が沢山あって水が集中する地形であり、大水の名所であることを確認しており、「大雨の時に大水をどっと出す川」と結論付けている。}	山田	A	山田解が妥当と思われる。
					この川沿いに昔冬のコタンが多くあって、これを通路としていたのではないかと思う。	更科		
34 サントマリ 三泊 (留萌市)	地区	サンチブ	{ ? -cip }	{ ? ・舟 }	往古、異国の縄からげ船が漂着したため。	松浦	C	? - - ? -
		サムオトマリ *サモトマリ	sam-o-tomari	和人の泊 {和人・いる・泊}	-	永田		
		サントマリ	{ san-tomari ? }	出し風を避ける港	留萌の副港であった。	駅名		

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観測	コメント
35 サンナイ 珊内 (稚内市)	地区	サンナイ	san-nay	浜の方に出る・川	各地にある名だが、何が出るのだからよく分からない。上にコタンがあって、人間がその沢を浜に出る川との説も聞くが、雪融けとか大雨の時に、水がどっと出る川にこの名が多いようである。この珊内も上が手の平を開いたように広がっている、あるいは「水」が出る意だったかもしれない。 {後年山田氏は「サンナイ、サンケナイ(ベツ)の多くは支流が沢山集まる川で大雨の時などに大水を出す川」としているが、この珊内については「もう少し調べないと何ともいえない」としている。}	山田	B	-
36 サンナイ 珊内 (神恵内村)	地区 川 山岳	サンナイ	san-nay	浜の方に出る・川	「この川は奥が深く急斜面が多く、横の方からも水が集まってきて、大雨だと鉄砲水が出る。」とのことで、少なくともこのサンナイは、水が出る(流れ出す)川と解してよいのではないかと思った。	山田	A	
37 サンル (下川町)	川 ダム	サラルペシペ *サンルペシペ	sar-rupespe sanrupespe	沙留越 沙留・峠道沢	北見の沙留へ下る路の意味。 ただしここを越えた所は、雄武から紋別で、沙留より少し北である。沙留と何か特殊な関係でこう呼んだのであろうか。	永田 山田	B	-

【シ】

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				観測	コメント
1 シーソラプチ (南富良野町)	川	シソラプチ	si-sorapci	ほんとうの(本流の)・空知川	然るべき支流を分かった所から上の本流の源流を、si{シ(本当の・本流の)}をつけて呼ぶのが一般の例であった。	山田	A	
2 シウッコツ 紫雲古津 (平取町)	地区	スムウンコツ *スムンコツ	sum-un-kot	{脂 <sup>クボミ</sup> ・の・窪}	昔、鱒が多く取れた時、ここで脂を採ったため。  村の西側の沙流川の崖にあった窪地をこう呼んでいて、それがこの名の起りだったのかもしれない。 {沙流川や門別川の下流域には「コツ」のついた名が多く、かつて村人は、「コツ」のついた所をたどって、目的地へと旅をしたという。門別川右岸から沙流川左岸シムウンコツまでの東西を結ぶ高台山道の西端部に位置していたので「西のコツ」と呼ばれたものかもしれない。}	松浦 山田	C	- - 諸説あり特定しがたい。
		スウンコツ	su-un-kot	鍋谷 鍋・の・沢	{この地出身の人に「鍋沢」姓が多いという。}	永田 山田		-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
3 シオ加塩狩 (和寒町)	地区 駅 峠	-	-	-	形はアイヌ語風に見えるが、天塩、石狩の間の峠という意味で一字ずつを採って塩狩とした和名であろう。	山田	A	「石狩」、「天塩」参照。
4 シオク夕首 (戸井町)	地区 岬	シリポク	si-r-pok	山・下	-	永田	C	-
		-	-	-	歴史的な経過から検討しても、現地の実態から考えても、永田説は認められない。和人が命名したもので、潮流の激しい岬を意味した「夕の首」と単純に解すべきである。	戸井町史		
5 シオ和塩幌 (足寄町)	川 駅	スッポロ	sut-poro	未広がる沢 裾・大きい	-	駅名	C	-
		スウオポロ	su-wop-poro	川床にえぐれた深みのある川 箱・大きい	-	山田		
		スプ	sup	激流、あるいは、蝶鮫の産卵穴	また、sup にオロ(or 所)を付けたスポロだったかもしれない。ただしこの川は大きな川ではない。	山田		
6 シオヤ塩谷 (小樽市)	地区 川 駅	スヤ	su-ya	鍋岩 {鍋・岸}	サバネクル(首領)が鍋を岩に掛けたという。 あるいは鍋の形の岩が岸にあったかもしれない。	永田 山田	C	- どちらとも特定しがたい。
		ソヤ	so-ya	岩・岸	宗谷とか日高の庶野などと同じ意味。	駅名		
7 シカオイ鹿追 (鹿追町)	町	クテクウシイ *クテクシ	kutek-us-i	鹿捕り柵・ある・もの(川、所)	クテクは鹿を捕るために柵を作り、鹿をそこに追い込んで、仕掛け弓で捕る施設であった。鹿追はこれを訳して呼ばれた地名。	山田	B	-
8 シカハ鹿部 (鹿部町)	町 駅	シケペ	sike-pe	背負う・所	文法上、sike に pe は付かない。	永田 山田	B	? - sike-un-pe の方が自然な解と思われる。
		シカウンペ {シケウンペ}	{sike-un-pe}	負う所	シカウンとは物を負うこと。うしろに内浦山またはシカベ山を負っているため。 おそらく、舟から荷をここで背負って内陸に入った所だったので、この名が付いたのだろう。	上原 山田		
9 シカリベツ然別 (鹿追町)	地区 山岳 湖 温泉	シカリベツ	si-kari-pet	自分を・回す・川 (回っている川)	この川は大きく半円形を描いて流れていて、その中に十条近い諸支川を包んでいる。だいたいこの地方の大川はまっすぐ南流しているのに、この川だけが違った流れである。si-kari-pet と呼ばれたのはその形からなのであろう。	山田	A	



現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				確定	コメント
10 シカリベツ 然別 (仁木町)	地区 川 駅 山岳	シカリベツ	si-kari-pet	自分を・回す・川 (回っている川)	どうしてそう呼んだかは分からないが、この川は大きく二股に分かれていて、どちらもゆるく半円を描いているので、その称が出たのであろうか。 {仁木旧地名録は「余市川の本流がここで大きく廻って流れている状態をさして名付けたものである。」と書いている。}	山田	A	
11 シコタン 色丹 (北方領土)	村 島	シコタン	si-kotan	大きい・村	-	山田	C	-
12 シコツ 支笏 (千歳市)	湖	シコットホ	sikot-toho	千歳川・その湖	元来のシコツ(si-kot 大きい・窪み 千歳川のこと、その川筋のこと)は千歳と改名されたのであったが、その音が支笏湖の形で残っていたのであった。	山田	A	語尾は-to でもよいのかもしれない。
13 シスン 土寸 (新十津川町)	川	ススウンナイ	susu-un-nay	ヤナギ・ある・川	この川が筋道を横切っている所で眺めると、今でも柳がいっぱい生えている。	山田	B	-
14 シツカ 静狩 (長万部町)	地区 川 峠	シットウカリ *シットウカリ	sir-tukari sittukari	山・の手前	長万部から砂浜伝いに北行すると、礼文の山塊に突き当たり、通行ができなくなる。その地名。	山田	A	
15 シツナイ 静内 (浦幌町)	地区 川	シットウネイ	sittuney {?}	両山の間{?}	-	永田	C	? -
		スツナイ	sut-nay	山の裾 <sup>スツ</sup> の・川	あるいは、これくらいの名から出たかもしれない。 {静内川は崖山のところで十勝川に合流しており、走り根に沿って狭いところから大川に合流する様子をいったものかもしれない。}	山田		-
16 シツナイ 静内 (静内町)	町 川 駅	シフチナイ	si-huci-nay	大・祖母・川	昔、アイヌの先祖である神の婦人がこの沢に住居したためという。 元々は現在地から東 10 キロの元静内の所の地名。会所の移動に伴い、この地の名称となった。	上原 山田	C	- 諸説あり特定しがたい。
		ストウナイ	sutu-nay	ブドウ・沢	あるいは「フッチナイ」で、「アイヌの元祖いた所」という。	永田		-
		スツナイ	sut-nay	フモト 麓・川	{元静内川右岸の尾根が海に突き出ている地形であり、山の麓についている川という意味だったかもしれない。}	駅名 山田		-
17 シタカ 舌辛 (阿寒町)	地区 川	シタカラ	sita-kara {?}	犬の子を生みたる所{?}	-	永田	C	? -
		シタツカラ	sitat-kar	ダケカンバ・を採る	八重九郎翁伝。	山田		-

現在の地名 (所在地)	区分	アイヌ語地名		アイヌ語の意味	解釈及び由来	出典	備考	
		カナ表記	ローマ字表記				備考	コメント
18 シタコロヘ 下頃辺 (浦幌町)	川	シタコロペ	{ sita-kor-pe }	犬を産みたる所{?}	土地の言葉で犬をシタという。	永田 山田	C	? - -
		シタツコロペ	{ sitat-kor-pe }	マカンバの木・の・もの(川)	-			
19 シノリ 志海苔 (函館市)	地区	ウカウシララ	ukaw-sirar	重岩 互いに重なり合う・岩	ウカウとシララが分かれて二つの地名となり、シララが訛ってシノリとなった。 たぶん sirar(岩)という地名があって、訛ったのだろう。	永田 山田	C	-
20 シノロ 篠路 (札幌市)	地区 駅	シノオロオ *シノオロ	sino-or-o	ほんとに・水が・ある(所、川)	語呂合わせをして、こうとも考えたが、これはただの研究案である。	山田	C	? -
21 シピナイ 志比内 (東神楽町)	地区	シペナイ	sipe-nay	鮭川	-	永田 知里 山田	C	- -
		シピナイ	{ si-pi-nay }	大・石・川	野中の小流で、川底を見ると大きめの石がゴロゴロしている程度の川。昔ゴロタ石の中を流れていた時代でもあって、この名が付いたか。			
22 シプイ 渋井 (泊村)	地区	シンプイ	sinpuy	井泉	湾内に湧泉があって、井戸としていたため。 知里氏は「sum(水?)puy(穴)か」と書いた。渋井川を少し上った道の右崖下に湧水があり、石で囲んで井戸形にしてあった。これが名の元になったシンプイだったろうか。	永田 山田	B	-
23 シプサン 渋山 (芽室町)	地区 川	スプ(キ)サラ	sup(ki)-sar	ヨシの・草原	芽室町役場に聞いたら、シプサラ川の転訛で「ヨシの残っている深い川」とのことであった。チウサン(ciw-san 急流・流れ下る)の形も考えられるが、どうも分からなくなった名である。	山田	C	-
24 シブノツナイ 志文 (紋別市)	川湖	スブンオツナイ	supun-ot-nay	ウグイ魚・多くいる・川	シブノツナイ川は川尻のところではシブノツナイ湖をつくっている。志文は川筋上流部の地名でこの川名から採った名であろう。	山田	B	-
	地区	*スブノツナイ						
25 シブン 志文 (岩見沢市)	地区 駅	スブンペツ	supun-pet	ウグイ・川	-	駅名	C	-